

「県の未来 国際貢献にあり」

マニフェストに具体的な数字が並ぶ財政再建問題などに比べ、将来的な県のビジョンを巡る議論は少々わかりにくいかもしれない。しかし、「県のあり方」こそ将来に向けた最大の争点であっていいはずだ。国際医療救済団体AMDAグループ代表の菅波茂さん(61)は「県の未来は『福祉の伝統』をベースにした国際貢献にあり」と言う。

【石戸論】



知事選によせて

AMDAグループ代表 菅波茂さんに聞く

——「地方主権」という考え方を強調されていますね。

地方分権から地方主権へ——という考え方で大事なのは、地方からでも世界と同じ距離で付き合い合えるということです。これまでの時代は国家が主役でした。ところがAMDAもそうですが、多くの企業が地方から国境を越えることができるようになってきているのです。

私たちは、これまで積み重ねてきた救済活動を通じて国際社会との付き合い方を考えました。世界は一神教、多神教、血

地方から世界と付き合い

縁、非血縁共同体のキーワードで、大きく四つのグループに分かれます。いずれと付き合い合うにしても、それぞれにメッセージを送ることが極めて重要になります。ところが、日本はメッセージの送り方が下手です。メッセージも送らずにアクションを起こせば、無用な不安と恐怖を招くだけなのです。

——岡山はどのようなメッセージを送ることができのでしょうか

ヒントは、04年に施行された県の国際貢献推進条例にあります。この条

「国境越える福祉」実現を

例は前文に「福祉の伝統やさまざまな発展可能性などを有する本県の特性を生かし」と書かれています。こうした考え方を県民の意思としてうたっているのは岡山だけでしょう。つまり、岡山が世界に発信するメッセージは「国境を越える福祉」にあります。

災害という不条理に遭遇した時、あるグループとは「困ったときはお互い様」と悲しみを共有し、別の文化を持つグループには「命の普遍性」への共鳴で信頼を得ていく。根底に相互信頼関係を築

いた国際貢献活動を続けることが、ビジネスにも良い影響を与えます。岡山が世界に必要とされるのが、岡山の国際化を進めていくはずですが、この活動をAMDAも後押ししたいと思います。

——具体的にはどんなことを想定していますか。

重要なのは道州制です。人口1000万人規模となつて、一つの国家並みの共同体になります。州になれば国際社会にさらに直接参加しやすくなるし、条例の持つ力が発揮できる環境が整います。国際社会に発信できるメッセージを持つ貴重な条例を生かした県政を、次の知事にはぜひ期待したいと思えます。